

日交研シリーズ A-767

平成 30 年度自主研究プロジェクト

「少子高齢会における夜の生活活動を支える都市と交通のあり方に関する研究」

刊行：2020 年 3 月

少子高齢社会における夜の生活活動を支える都市と交通のあり方に関する研究  
City and Transportation for Safe, Secure and Comfortable Nighttime Activities  
in the Era of Aging Society with Fewer Children

主査 大森宣暁（宇都宮大学教授）  
Nobuaki OHMORI

要 旨

24 時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の 4 要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが求められるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。本プロジェクトメンバーらは、これまで土木計画学研究発表会において、夜の都市計画に関するセッションを企画し、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を再認識した。以上の背景から本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に、夜間の自宅内外の生活活動に参加できる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。

宇都宮市内 3 か所の歓楽街の店舗調査の結果、泉町・本町は一件目に訪れることが多いと考えられる飲食を主目的とする店舗よりも、従業員とのコミュニケーションを主目的とする店舗が多いことが明らかとなった。また、歓楽街来訪者および宇都宮市民に対する Web アンケート調査データの分析の結果、泉町・本町は、認知度が低く、訪問頻度が低い、訪問者の年齢層が高いことなど、泉町・本町と他 2 か所との来訪者の個人特性や来訪理由の違い等が明らかとなり、情報提供が不足していることが課題の一つであると認識されたため、認知度向上および来訪者数増加を目的とした Web サイトのデザインを行った。

モンゴル、ウランバートルの大学生に対する調査の結果、昼と夜の自由活動の満足度が主観的幸福感に影響を与えていること、世帯構成、出身地、大学の立地等の個人特性、自由時間の活動内容、時間的・経済的な不満、施設や交通に対する不満等が、自由活動の満足度および主観的幸福感に影響を与えていることが明らかとなった。

キーワード：夜、活動、都市、交通

Keywords : nighttime, activity, city, transportation